

---

# 異世界？ポケモンの世界？！

スヴェー

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

異世界？ポケモンの世界？！

### 【Nコード】

N2317BA

### 【作者名】

スヴェー

### 【あらすじ】

スピード違反&信号無視の車にはねられ死んでしまった普通すぎる中二の女の子がポケモンの世界に転生し旅をするお話。

## プロローグ（前書き）

初めての小説となりますので、誤字、脱字等があると思いますが温かい眼で見てやってください！

## プロローグ

「……どこ……」

初めまして、中村雪です。ありがちな名前だよね。

とりあえず、ここどこ？なんもないし白すぎて眩しい……。

「ちゃーっす、目が覚めた？」

「え？あハイ……って誰？」

そこに居たのは……なんかチャライ男、うわぁーこういうタイプ  
凄く苦手なんですけど、余裕で人見知り発動するし。

「俺？俺は神様で……すっ……ゴメン、やりすぎたね誤まるから  
冷たい視線俺に向けないで」

あ、何気に素直な奴だな。

「で、ここどこ。確か車にはねられて……」

「そうそう、アレ実は俺、なんだよねー」

「……は？」

「暇だったから一人の人間に憑依して車飛ばしてたら間違っつて雪ち  
やん殺しちゃった」

いやいやいやいやいや、「殺しちゃった」「じゃねーよ！反省して  
ねえなてめえ！！」一応アンタ神様でしょ！そんなことしていいのか  
?!

「だから、お詫びとして雪ちゃんを異世界にご案内しまーす！」

「異世界……だと……」

「え？いやだった？因みに行き先はポケモンね」

嫌じゃねー！ポケモン？異世？喜んで行かせてもらいますよ！つて  
か逆に殺してくれてありがとございます！

「嫌じゃない！行く！」

「オツケー、じゃあいつてらっしやい」

パチンと神様が指を鳴らすとうちの足元に大きな穴が開いた……。

は？え、ちよ、説明とかなんもないの？

「がんばー」

「「がんばー」じゃねえよ！落ちるー！！てめえ覚えてろよクソ神  
！！」

そしてうちは真っ逆さまに落ちていった。

## ブローグ（後書き）

上手く書けてるか不安です・・・中傷コメなどはご遠慮ください

中身は中二、体は・・・

「はいコレ」

「何コレ」

「ポケモンのタマゴよ、そろそろ良いかなーって、コレはウルのタマゴよ」

え？マジ？うおおおおおおお！燃える！タマゴからかゝ、うちが一番好きな育て方じゃないの、生前は四天王倒したら自分の理想のパーティー作る為に育て屋さんにポケモン預けてめっちゃタマゴ量産してチャリで走りまくったっけ。

・・・そういえば普通に居るけど、なんで子供の姿なの？！あんのクソ神・・・ってか気付くの遅いな、ポケモンがいることに感激して「転生？なにそれひゃっはー！！」とか思ってたし言ってたからね。周りから凄く冷たい視線浴びたよ。

気付いたついでだ、ちよっと思い出してみよう、えーっと約2時間前にはは草原みたいところに突っ立ってたんだっけ？で目の前にムツクルとかビツパがいて「ひゃっはー！」とか言いながら追いつけ回してたら知らない人に注意受けて「チツ・・・。」とか思いながら歩いてたら母親と思われる人物に呼ばれて今に至ると・・・名前は「ウル」らしい。

うわぁ・・・突然すぎる事に動じないって・・・。

「なにやってるの？早く暖めないと。」

「あ！そうだった、ありがとうね、お母さん？」

「何で疑問系なの？大事にするのよ。」

「嫌なんでもないの。」

「そう・・・あ、そういえばウル、終わったの？」

え？何のこと？

「終わってないのね、もうすぐで学校始まるのよ……？」

学校？たまたまそこにあつた紙をみたらなんと今は夏休み中だ、宿題？

「あ、多分ハイヤツテイマセン。」

「多分って……終わるまでタマゴはお母さんが預かります……！」

「そんなー！！」

そう言つと手に持っていたタマゴを奪い取る、畜生子供の力じゃ全然対抗できなねえ。

「返して欲しかったら宿題を終わらせなさい。」

「うーこうなつたらやったやらあ！」

ダッシュで部屋に行き、残っている宿題を確認。

ふっ……さすがポケモンの世界、全部ポケモンに関するの事だ、ポケモン好きのウチを舐めるなよおおおお！！

そして数日間部屋にこもつて宿題に没頭するのであった。

中身は中二、体は・・・（後書き）

ポケモンの世界なので多分宿題もポケモンに関してのものかなあーと。

いざ、ポケモンスクールへ！

「うおーここがポケモンスクールか・・・」

今ウチはポケモンスクールの前に居る、夏休みが終わったのだ。宿題はすぐに終わらせてタマゴは返してもらった。今は部屋の布団の中に入れてある、アニポケみたいな感じで置いて冷え切って死んでしまつたら洒落にならんし。

「お、ウルじゃねえか、久しぶりだな」

え、誰この子知らないんだけど、相手は知っているみたいだけど・・・。

「え？もしかして俺の事忘れた？ひっでーなお前、ユウトだよ」

初めて聞くお名前です。まあとりあえず・・・。

「あ、ああ、ユウトか思い出した？」

「じゃあなんで疑問系なんだよ！」

「それがウチ」

「何だよそれ、にしても凄い性格変わったな」

「え、そうなの？」

「自覚なしかよ、前まではすっごい暗い奴で無表情な奴だったのに」  
「よ」

か。  
へーそうなの、なにそれまるで生前の小学校時代のウチじゃないか。

「まあそんなことよりもお前、タマゴもらった？」

「あ、うん」

「俺も貰ったんだよ！楽しみだよなーどんなポケモンが生まれるんだろうっ！」

わかるよ、その気持ち、ゲームでは何が出るかわかるけど今はわからない。あー早く生まれてこないかなあー。

「うお、遅刻しちゃう！早く行こうぜ！」

「了解」

教室に行つて自分の席に座つたのだが皆夏休みの思い出とか色々語つてる。あー思い出、まだ宿題やりまくつた事とタマゴ貰つたことしかねえ。

でも聞き耳立てると皆タマゴの話をしている、しかも同じ日に・・・まあいいや、貰えただけで凄く満足だし。

「なあ、ウルは生まれてくるならどんなポケモンがいい？俺はカツコイドラゴンタイプとかかなあ！」

お、気が合うねえ、やっぱカツコイポケモンがいいよなあポーマンダーとかガブリアスとかカイリユウとかさ！でも飛行タイプのムクホークもいいねえああ、早く生まれなかなあ。

「えーウチはどのポケモンもいいなあ、決められないよ。」

「だよな、俺ドラゴンタイプ以外のポケモンもいいなあとか思つてるしな」

「ドラゴンタイプは育てるの大変だけど大変だからこそ燃えるんだよな」

「育てた事あるの？」

あ、がむしゃらにドラゴンタイプ育てていたことを思い出したよ。

「いや、燃えるなーと思って」

「へー、もうすぐ授業始まるよ」

そして授業が始まった。

やっぱりポケモン世界、タイプのこととか状態とか性格とか生態とか色々、全部ポケモンに関する授業だ、皆難しい顔して真剣に聞いているんだけどこんなウチにとっては簡単すぎる、だから全部手を挙げてみんなの無理難題をウチが全て解いた。

「凄い」とか色々言ってきたり勝手にライバル視する奴も居るし尊敬のまなざしを向ける奴も居る。

ふっ・・・こんな問題もわからないのか、まだまだだな。

なんだかんだで授業は終了し下校することに。

「じゃあな、ウ」 「じゃあな!」 「お、おう・・・」

挨拶なんてしてる場合じゃねえ! タマゴおおおおお!!!

急いで帰ったがタマゴには異変が無く親に「まだ数日かかる」といわれてショックを受けた。

いざ、ポケモンスクールへ！（後書き）

色々省きすぎたかな？；

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2317ba/>

---

異世界？ポケモンの世界？！

2012年1月6日18時55分発行